

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道1号原宿交差点改良 <small>ほらじゆくこうさてんかいりょう</small>	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局			
起終点：自：神奈川県横浜市戸塚区原宿 至：神奈川県横浜市戸塚区原宿	延長	0.83km			
事業概要：原宿交差点改良は、国道1号と環状4号との交差部を立体化し、国道1号の通過交通と環状4号との出入り交通を分離することによって、慢性的な交通渋滞の解消、交通安全性の向上、横浜以東と藤沢・湘南以西のアクセス強化、沿道環境の改善を目的とした事業である。					
S62年度事業化	S21年度都市計画決定 (S46, S62年度変更)	H3年度用地取得着手 H18年度工事着手			
全体事業費	約156億円	事業進捗率：95% 供用済延長：0.83km			
計画交通量	53,300~67,600台/日				
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">B/C (事業全体) 3.6 (残事業) -</td> <td style="width: 30%;">総費用 (残事業/事業全体) 6.3/186億円 事業費：6.3/180億円 維持管理費：- /5.3億円</td> <td style="width: 30%;">総便益 (残事業/事業全体) - /663億円 走行時間短縮便益：- /499億円 走行費用減少便益：- /127億円 交通事故減少便益：- /37億円</td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 3.6 (残事業) -	総費用 (残事業/事業全体) 6.3/186億円 事業費：6.3/180億円 維持管理費：- /5.3億円	総便益 (残事業/事業全体) - /663億円 走行時間短縮便益：- /499億円 走行費用減少便益：- /127億円 交通事故減少便益：- /37億円	基準年：平成22年
B/C (事業全体) 3.6 (残事業) -	総費用 (残事業/事業全体) 6.3/186億円 事業費：6.3/180億円 維持管理費：- /5.3億円	総便益 (残事業/事業全体) - /663億円 走行時間短縮便益：- /499億円 走行費用減少便益：- /127億円 交通事故減少便益：- /37億円			
感度分析の結果					
事業の効果等 (1) 交通混雑の緩和：原宿交差点周辺は、交通の集中により県内ワースト1の渋滞区間で、全国平均の約30倍以上の渋滞が発生しており、交差点の立体化により渋滞の緩和が見込まれる。 (2) 安全安心な通行の確保：原宿交差点を中心に藤沢方面で全国平均の約4.7倍の事故が発生しており、特に渋滞を要因とする事故が多く、交差点の立体化による改善が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見 ・横浜市長の意見：本事業については、平成21年4月の東京方面（上り線）暫定供用開始に伴い、渋滞損失時間が大幅に減少し、整備効果が出ております。平成22年12月の全線開通に向け事業の推進を期待しておりますので、引き続き残事業の早期完了をお願いいたします。（平成22年9月）					
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 高速横浜環状南線・横浜湘南道路・さがみ縦貫道路で事業が進められている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成22年12月12日、上下線トンネル立体化完成。今後は、側道整備（歩道拡幅）を進める。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地買収が難航し長期化したものの、平成18年4月に立体部の用地取得完了後は、計画的に事業を推進。残る側道整備（歩道拡幅等）は、計画的な事業執行が可能。					
施設の構造や工法の変更等 トンネル部掘削に新技術（ハーモニカ工法）を採用し、事業費を約32億円縮減。					
対応方針：事業継続					
対応方針決定の理由：以上の事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					
事業概要図					

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。